学校番号	1208

平成 31 年度　　指導と評価の年間計画

教科	科目（講座名）	単位数	指導学年	履修の条件
芸　術	書道Ⅲ	2	3	書道Ⅱを 履修していること

使用教科書	副読本等
光村図書「書Ⅲ」	なし

準備物・費用等	必修／選択	全員履修	セット	自由選択	授業形態	講義	実技	実習
教科書等。教材費として、別途４０００円が必要です				○			○	

１．担当者からのメッセージ（学習方法等）

毎時間、毛筆や硬筆などの課題に応じて学習成果（作品）を提出してもらいます。古典や見本を観察し、その特徴を理解し、表現できているか、最後まで自己の能力を最大限に発揮する取り組みをしているか、用具、用材を適切に扱うことが出来ているかが大切となります。

２．学習の到達目標

書道における表現と鑑賞の創造的な活動を通して、書を愛好する心情を育て、書の文化や伝統についての理解を深める。
様々な場面に対応できる書写能力を育てながら、主体的に自己を表現する能力を高める。

３．学習評価（評価規準と評価方法）

観点	ａ：書への関心・意欲・態度	ｂ：書表現の構想と工夫	ｃ：創造的な書表現の技能	ｄ：鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	提出作品　観察等	提出作品　観察等	提出作品　観察等	提出作品　観察等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４．学習の活動

月	単元（題材）	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4月 ～ 5月 中旬	漢字の書の学習	書道Ⅱで学習した 楷書、行書の復習	○	○		○	a.二書体（楷書・行書）の美とその表現技法について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている。 b.二書体の基本的な用筆方法を理解し、表現を工夫している。 c.逆筆と順筆、筆の弾力を利用する用筆方法を身に付け表している。 d.文字の成り立ちに興味を持ち、代表的な二書体の古典を知り、そのよさや美しさを味わっている。	学習活動への参加状況と態度 学習成果（作品）
5月 下旬 ～ 7月	漢字の書の学習	戦国、秦、漢時代の 書の美と文化を学ぶ	○	○		○	a.戦国・秦・漢時代の書の美とその表現技法について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている。 b.五書体の基本的な用筆方法を理解し、表現を工夫している。 c.逆筆と順筆、筆の弾力を利用する用筆方法を身に付け表している。 d.代表的な戦国・秦・漢時代の書を知り、そのよさや美しさを味わっている。	学習活動への参加状況と態度 学習成果（作品）
8月 下旬 ～ 10月 上旬	漢字の書の学習	宋～元時代の書の美と文化を学ぶ	○	○		○	a.宋～元時代の書の美とその表現技法について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている。 b.五書体の基本的な用筆方法を理解し、表現を工夫している。 c.逆筆と順筆、筆の弾力を利用する用筆方法を身に付け表している。 d.代表的な宋～元時代の書を知り、そのよさや美しさを味わっている。	学習活動への参加状況と態度 学習成果（作品）
10月 中旬 ～ 12月	漢字仮名交じりの書の学習	・古典に学ぶ ・自分らしい表現を求める ・思いとことばをつむぐ「書」の試み	○ ○	○ ○ ○	○		a.文字の選定、作品の構想、完成に至る創作活動について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている。 b.各書体のよさを感じ取り、作品の意図を明確にし、表現を工夫している。 c.作品の意図を明確にするための表現の技能を身に付け、表している。 d.互いの作品を鑑賞し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	学習活動への参加状況と態度 学習成果（作品）
1月 ～ 2月	仮名の書の学習	仮名の書の美と文化を学ぶ	○	○		○	a.墨色について関心を持ち、積極的に表現技法を高めようとしている。 b.一番省略された用筆法や単純化された平仮名の筆使いについて理解し、表現を工夫している。 c.平仮名の単純化された筆使いを身に付け、表現している。 d.墨色は黒一色ではないことを理解し、そのよさを味わっている。	学習活動への参加状況と態度 学習成果（作品）